

那須与一伝承館通信〈第2回〉

このコーナーでは、毎月一回、那須与一伝承館の企画や収蔵資料などについて紹介します。



那須家の雛人形(江戸時代)

○那須家の雛人形

那須与一伝承館では3月2日(水)から、江戸時代の那須家で用いられていた雛人形を特別展示いたします。

今回展示する雛人形は、江戸時代中期以降に製作された「古今雛」の系統に属するもので、内裏雛・楽人5体・隨身2体の計9体からなっています。

内裏雛はほぼ完全な形で残っているのですが、楽人の持つ楽器や隨身の持つ弓矢、さまざまな道具類などは、残念ながら今では失われてしまっています。

これらは弘前10万石の大名津軽家の一門にあたる、津軽順朝の娘が、嘉永2年(1849)に那須資礼の養女となった際に、実家から持参し

たものと伝えられています。

確かに顔立ちや衣装なども素晴らしい、大名家の姫君の持ち物にふさわしい気品が漂っています。

こうはその後間もなく、那須家の跡取りとなる婿を迎えるので、実質的には嫁入り道具の一つとみて差し支えないと思われます。

ところで、上段の雛人形の写真をご覧になって何かお気付きになりましたか？

現在では向かって左に男雛、右に女雛を飾るのが一般的ですが、かつてはこの写真のように、男雛を右、女雛を左に飾っていました。

現在の飾り方にならなくなった理由については諸説あるのですが、一説には昭和3年(1928)の昭和天皇の即位礼に際し、西洋式を採用して天皇が左、皇后が右に立ったことから、東京の雛人形業界がこれにならったためといわれています。

展示期間は4月8日(金)まで。名門那須家を飾った雛人形の風格を、ぜひこの機会にお楽しみください。

■問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220

彫刻

周遊 ⑤

市内で作られた作品とその作者

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。



夢の起こり シャイファ アイファ 夏愛華 (台湾) 2009年

平成22年2月に開所したばかりの両郷地区コミュニティセンターの玄関を入ってすぐのロビーに展示されている作品です。

床には大きな枯れ木をイメージしたようなものが横たわり、それとは対照的に、人の形などをした大小の像3体が直立しています。それは

まさに「精霊」を感じさせ、作者も「夢の精霊」の話としてこの作品を作り上げています。

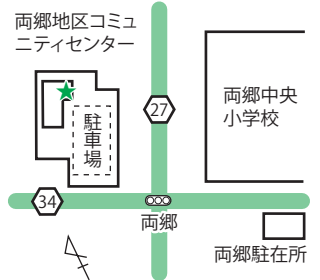
作者は「人間の無意識の世界」の「ある部分」を取り出して形あるものに作り上げているといいます。この作品のある部分とは「夢」。夢は「過去、現在、未来、様々な出来事」が混ざりあって、時には「危険な冒険」にもなるが、それは「現実の世界と変わりのない事」。そんな夢の世界へ誘う「夢の精霊」なのだそうです。

この作者は、台湾出身の夏愛華(シャイファ)さん。国立台湾芸術学院卒業後、沖縄県立芸術大学大学院を卒業。日本、台湾、アメリカを中心に活動しており、日本と台湾の交流を深める文化的活動も行っています。



夏愛華さん

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718